

## 令和 6 年度文化祭模試問題

# 世界史

**I** イスラーム世界に関する【文章】を読み、空欄 1～6 及び A、B を埋め、後の問いに答えよ。

【文章】750 年、①アッバース朝が建てられた。754 年に第 2 代カリフとなった( 1 )は、行政機構の整備や都バグダードの建設を行い、王朝の礎を築いた。アッバース朝は、第 5 代カリフ( 2 )の治世に最盛期を迎えたが、その子( 3 )とアミーンによる王位を巡る内乱をきっかけに衰退へと向かった。アッバース朝が衰退するにつれ②各地に自立した王朝が誕生、( A )年にはブワイフ朝の軍勢がバグダードに入城し、カリフから大アミールの称号を与えられ、軍事・行政権を掌握した。( B )年にはカリフの要請を受けたセルジューク朝の( 4 )が軍勢を率いてバグダードに入城、ブワイフ朝を倒した( 4 )はカリフからスルタンの称号を与えられた。セルジューク朝第三代スルタンの( 5 )は宰相( 6 )を登用して軍制や税制を整備、セルジューク朝の全盛期を築いた。しかしそのセルジューク朝もモンゴル軍の侵入によって滅亡し、イル・ハン国によってとってかわられた。

問 1 下線部①について、アッバース朝により滅ぼされたウマイヤ朝で行われていた徴税方法について、非アラブ人のイスラーム教改宗者を示すアラビア語の単語、及び地租、人頭税を示すアラビア語の単語を用いて 3 行以内で記せ。

問 2 下線部②に関連して、アッバース朝の弱体化につれて各地にカリフを名乗る王朝が出現した。これに関して以下の問いに答えよ。

- (1) シーア派の一派イスマイル派によって 909 年に建てられ、建国当初よりその君主がカリフを名乗っていた王朝の名前を答えよ。
- (2) 後ウマイヤ朝の第 8 代君主として即位、929 年にカリフを称し、後ウマイヤ朝の最盛期を築いた人物の名前を答えよ。

問 3 当時のイスラーム世界では君主の保護の下、学問や文化が目覚ましい発展を遂げた。これに関して以下の問いに答えよ。

- (1) 地理学と歴史学について、当時のイスラーム世界において固有の学問とされる場合は A、外来の学問とされる場合は B と記せ。
- (2) ( 3 )が創設した翻訳・研究機関「知恵の館」をアラビア語で何と言うか。
- (3) 「知恵の館」での翻訳活動は、12 世紀のヨーロッパにおける文化復興運動の 1 つの遠因となったとされる。その理由について 4 行以内で記せ。

(4) セルジューク朝時代に活躍したイラン系の科学者・詩人で「四行詩集」を著したことや太陽暦の制定に参加したことで知られる人物の名前を答えよ。

(5) 以下の文 A～C について、内容が正しければ○を、正しくなければ×を記せ。

A ( 6 )の人物は各都市にアズハル学院を設立し、スンナ派の神学を教授させた。

B セルジューク朝に仕えたイブン・ハルドゥーンは「世界史序説」を記した。

C イル・ハン国に仕えたラシード・アッディーンは「集史」を記した。

Ⅱ 15～16 世紀のヨーロッパに関する【文章 A】【文章 B】を読み、後の問いに答えよ。

【文章 A】15 世紀から大航海時代が始まった。①スペインはポルトガルと共に、他のヨーロッパの国々に先駆けて世界各地に進出した。1519 年から 1521 年にかけてコルテスがアステカ王国を征服し、1523 年にはメキシコ総督となった。当初メキシコでは、他のラテンアメリカのスペイン植民地と同様、②エンコミエンダ制と呼ばれる制度が採用されていたが、③聖職者からの批判などもありこの制度は衰退した。

【文章 B】14 世紀以降、現在のウクライナはポーランドによって支配されていた。④15 世紀中頃より、ポーランドの貴族は農民の直接統治に乗り出し、搾取を強めた。農民は土地を所有する権利を奪われ、自分の村を離れることは禁止とされた。こうして、キエフ・ルーシ時代には自由民だった農民の大部分が、16 世紀末には農奴に転落していた。

さてこの時代、⑤ウクライナ中南部は、極めて肥沃な土地であるにも関わらず、人口が希薄な地域であった。農民に対する貴族の締め付け・搾取が強まるにつれ、この肥沃で人口が希薄な地域に逃亡して移住する人々が増えた。彼らは後に、コサックと呼ばれることとなる。

問 1 下線部①に関連して、1493 年にポルトガルとスペインの植民地分界線を設定した教皇の名前を答えよ。また、1494 年に締結された、1493 年の植民地分界線をおよそ 1500km 西に移動させることを定めた条約の名前を答えよ。

問 2 下線部②について、この制度の概要について 2 行以内で説明せよ。また下線部③について、「インディアスの破壊に関する簡潔な報告」を著し、植民地でのインディオに対する残虐な扱いについてスペイン国王に訴え、エンコミエンダ制に反対した聖職者の名前を答えよ。

問 3 大航海時代には商業活動などを通して世界の各地域の結びつきが強まっていった。これに関して以下の問いに答えよ。

(1) スラウェシ島の東、ニューギニア島の西に位置し、「香辛料諸島」とも呼ばれ、ヨーロッパ諸国による激しい争奪戦が繰り広げられた島々の名前を答えよ。

(2) ガレオン貿易のアジア側の拠点とアメリカ大陸側の拠点の名前をそれぞれ答えよ。

(3) ガレオン貿易において東アジアからアメリカ大陸へ運ばれた代表的な商品を 2 つ答えよ。

問 4 下線部④について、当時ポーランド貴族が農民に対する搾取を強めた理由について、当時のヨーロッパの経済状況を考慮して 2 行以内で説明せよ。

問 5 下線部⑤について、当時のウクライナ中南部が人口希薄地域となっていた原因で、この地に移住した人々がコサックとして武装するようになった原因でもある、同時代のある周辺国による活動と、その活動の目的について、合わせて 2 行以内で説明せよ。

Ⅲ 近現代の南北アメリカに関する【文章 A】【文章 B】を読み、後の問いに答えよ。

【文章 A】19 世紀初頭、①中南米地域でスペインからの独立運動が活発になった。ヌエバ・エスパーニャ副王領でも独立の機運が高まり、1810 年にはドローレスの神父( ②A )が武装蜂起を行ったが敗北、( ②A )はアメリカに逃亡する最中に捕えられて処刑された。

( ②A )の処刑後も各地で武装反乱が続いたが、次第に副王軍によって鎮圧されていった。しかし 1820 年、③反乱鎮圧に従事していた王党派軍人イトゥルビデが、反乱軍と保守派クリオーリョの両方をまとめあげて本国政府に反旗を翻し、翌年独立を宣言した。イトゥルビデは自ら皇帝を名乗りアグスティン 1 世として即位したが、共和派により 1823 年に追放された。④以降メキシコでは政治的混乱や諸外国との戦争が続き、国土が荒廃していった。

【文章 B】1890 年のフロンティア消滅以降、アメリカは帝国主義的な膨張政策に乗り出た。1898 年、アメリカの( ②B )大統領はアメリカ＝スペイン戦争を開始、この戦争に勝利してプエルトリコなどを獲得し、キューバを独立させた。1901 年に就任した T・ローズヴェルト大統領は( ⑤A )。1909 年に就任したタフト大統領は経済力を背景にドル外交を実施し、ラテンアメリカへの進出を強化した。1913 年に就任したウィルソン大統領は( ⑤B )。

問 1 下線部①について、多くの中南米諸国でクリオーリョを中心として独立運動が展開されていった背景を 5 行以内で記せ。ただし、「ペニンスラール」「フランス革命」「ホセ 1 世」という語句を必ず使用すること。

問 2 文中の( ②A )及び( ②B )に当てはまる人物の名前を答えよ。

問 3 下線部③について、イトゥルビデがメキシコを独立に導いた理由について、当時の本国の政治情勢を念頭に置いて 2 行以内で記せ。

問 4 下線部④に関して、以下の問いに答えよ。

(1) 1861 年、フランスのナポレオン 3 世はメキシコ出兵を実施した。当時既にアメリカはモンロー主義を掲げ旧大陸と新大陸の相互不干渉を唱えていたが、ナポレオン 3 世はアメリカがこの戦争に介入することはないと判断して出兵に踏み切った。ナポレオン 3 世がそのように判断した根拠について 1 行以内で記せ。

(2) フランスのメキシコ出兵に抵抗したメキシコ軍人で、1876 年にクーデターを起こして独裁体制を樹立、外国資本の導入によるメキシコの近代化を進めた人物の名前を答えよ。

#### 問 5

(1)セオドア・ローズヴェルトが中南米で行った外交政策の概要を( ⑤A )に当てはまる形で 2 行以内で記せ。ただし「コロンビア」「運河」という語句を必ず使用すること。

(2)ウィルソンが中南米で行った外交政策の概要を( ⑤B )に当てはまる形で 3 行以内で記せ。ただし「ウエルタ」「ベラクルス」という語句を必ず使用すること。